

令和3年生駒市教育委員会第9回定例会会議録

1 日 時 令和3年9月27日(月) 午前9時～午後0時15分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 審査事項

- (1) 報告第13号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和3年生駒市議会第4回(9月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 報告第14号 臨時代理につき承認を求めることについて(生駒市立学校・園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの改定について)
- (3) 報告第15号 令和2年度決算報告について
- (4) 報告第16号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (5) 報告第17号 生駒市生涯学習施設等の使用料等に関する規則の一部を改正する規則の制定について
- (6) 議案第29号 生駒市立幼稚園の再編に係る方向性の決定について
- (7) 議案第30号 生駒市立小・中学校の再編に係る方向性の決定について
- (8) 議案第31号 生駒市社会教育委員会議運営規則の一部を改正する規則の制定について
- (9) 議案第32号 生駒市生涯学習施設条例施行規則及び生駒ふるさとミュージアム条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
学校給食センター所長	財 満 直 也	こども課長	松 田 悟
こども課指導主事	川 田 奈津子	こども課指導主事	松 本 裕 美
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	石 田 昌 代	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

6 傍聴者 6名

午前9時 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・令和4年成人式の開催について、清水生涯学習課長から説明

<参照：資料1>

(質疑) なし

・ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー 2021 優秀賞受賞について、西野図書館長から説明

<参照：資料2>

(質疑)

飯島委員：電子書籍の導入や子どもの読書離れ等、本との関わり方が変わっていく中で、生駒市の読書活動は衰退することなく盛り上がるの方向にあると感じる。学校では子どもたちが作ったPOPを図書室に貼っていたり、朝の会で読書の時間を設けたり、本に関心が持てるような活動ができている。市立図書館においても、市民の皆様に本に関わってもらおうような取組をしている。読書の機会が減ってきているからこそ、新しい読書の機会を提案する取組を今後も継続していただきたい。

○日程第3 報告第13号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和3年生駒市議会第4回（9月）定例会提出議案の意見について）

・臨時代理につき承認を求めることについて（令和3年生駒市議会第4回（9月）定例会提出議案の意見について）について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p1～p15、資料3>

(質疑)

レックス委員：なぜ年度の途中での変更なのか。背景が知りたい。

山本課長：奈良県の最低賃金が変わったため、それに伴い変更している。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第14号 臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市立学校・園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの改定について）

・臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市立学校・園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの改定について）について、花山教育指導課課長補佐から説明

<参照：議案書 p 1 6、別冊 1、資料 4 >

（質疑）

飯島委員：事務局の方々や学校の先生方、児童生徒や保護者の皆さんはいつ終わるかわからない状況に疲弊しているだろう。しかし今行われている感染予防策は、ワクチンの接種が進んでも、突然なくなるものではなく、今後しばらく続くだろう。そのため、今後も緊張感を持続し大規模なクラスターを起こさないよう取り組まなければならない。引き続き対応をお願いしたい。

伊藤委員：現在、午後の授業はあるが給食がないという状況が1か月以上続いている。決まった時間内に昼食を取らなければいけない中で、親が日中家にいない子どもたちは簡易的なカップラーメン等を食べている場合がある。本来親が用意しておく必要があるかもしれないが、難しい家庭に対して配慮は必要であると感じる。例えば、現在一般的に学校にお金を持って行ってはならない決まりがあるが、これを保護者から申請があった場合のみ認める等、柔軟な対応が必要であると感じる。特に制服がある学校に関しては、制服を1度脱いでから買い物に行き、また授業を受けるために制服を着なくてはならないという現状がある。今後の校長会でお伝えしてほしい。

奥田部長：このことについて、検証が必要であると認識している。学校からの報告は今のところ受けていないが、この事態は大きなことだと認識している。給食を出せないもどかしさもある。食の安全性を保つということも引き続き進めていきたい。現在9月末までが緊急警報である。今後聞き取り等進めていきたい。

坪井委員：大きな混乱もなく子どもたちも楽しくオンライン授業を受けている。周りの保護者にできるだけ授業を見てくださいとお声がけした。その中には、先生からの一方的な授業であったといった意見や、児童が音声をなかなか切ってくれず先生の声が聞こえない低学年のクラスもあったと聞いている。しかし始めることが大切で、相互に生き生きとした授業展開がオンラインでも行われるようになっていけば良いと感じた。

原井教育長：給食の件と同様に、成果と課題を検証しながら今後とも取り組んでいきたい。

古島委員：実際に子供がオンライン授業を受けている様子を見た。午前中が対面で午後がオンラインというのは、準備や配慮が必要である。しかし段階的に進めていくというのは、先生たちにとって良い流れだったのではないかと。私自身、学びが起こっていたと感じた。大きな混乱がなかったとはいえ、先生によっては改善点等あったと思うので、そういった実態を教育委員会で調査していただいて次のプラスにしていきたい。

伊藤委員：私の家では、中学の授業と大学の授業、会社のリモートワークの3つがオンラインを使用していたが、中学のオンライン授業だけが途切れてしまうことが何度かあった。発表が成り立たないクラスもあったと聞いている。インフラの状況を検証していただきたい。

坪井委員：加えて、願いがある。子どもたちは音楽の授業を1年していない。オンラインならできるのではないか。検討してほしい。

原井教育長：合唱は音がずれるので難しいが、すでにできる範囲で実施している。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 報告第15号 令和2年度決算報告について

- ・令和2年度決算報告について、奥田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明
<参照：議案書p17、別冊2>
(質疑)なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 報告第16号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、花山教育指導課課長補佐から説明
<参照：議案書p18、別冊3>
(質疑)

伊藤委員：良い点がたくさんあったが、45ページ以降が気になった。(39)の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という問いは、これから大切になっていく主体的な学びに関わるが、ポイントが低いのではないか。また、学級活動や道徳の授業も低い。主要教科以外での主体性や、グループにおける自発的な働きを育む教育にまだ力が入っていないのではないかと読み取れる。また、現在も同じかは分からないが、児童会・生徒会も事前に作られた原稿を読むような形ではなく、もう少し子どもたちの自発性を生むような取組が必要ではないか。

古島委員：私も総合的な学習の時間が気になった。子どもたちが安心して自由に発言できる場が少ないのではないだろうか。それが自己肯定感や自尊感情の低さにも繋がっているのではないか。これは日本全体の課題である。先生の自己肯定感はどうか。日常の教育活動の先生との対話の中で感じ方が変わることもあるだろう。一方で学習については、行うことが決まっているので、同時に解決は難しいかもしれないが、総合的な教育の時間の使い方を

生駒市として作っていったら面白いのではないか。現在、総合的な教育の時間は各学校に任せているのか。

花山補佐：その通りである。

古島委員：総合的な教育の時間だからこそ、先生がティーチャーではなくファシリテーターとして授業ができるといいと思う。難しいことではあるが、少しずつ子どもたちに委ねる時間を作れると良いと感じる。

原井教育長：令和の日本型教育の中でも、教育委員会としては、生駒モデルを確立していきたい。総合的な教育の時間を設けてから年月が経ち、形骸化しているのではないかという部分もあるかもしれない。今後はSDGsや、尾崎さんを中心に進めているキャリア教育にも力を入れたい。教師だけでなく保護者等の周りの大人の生き方が子どもに影響すると考えている。

飯島委員：今2人からもあった45ページの結果については非常に重要である。おそらく学校、学級ごとに課題は違うと思うので、原因を先生方で考えてほしい。次に46ページの(40)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という問いに関して、これは決して悪くない結果であると感じる。(40)は(39)より困難な課題である。しかし困難な方に高い意識を持てるということは総合的な教育でも高い意識を持てるはずではないか。先生方には、子どもが今何に不安を持っているのかを明らかにし、次に生かしてほしい。また、生駒市は全体的な学力が高いが、奈良県は全国平均と比べ学力が低い。奈良県の学校以外の学習時間は多いが、学力は低い。生駒市独自で先生を育てているわけではなく、人事異動もあるのにも関わらず、なぜこのような差が出るのか。その原因を知ることが、今後も高い数値を出す上で大切であるだろう。またそうすることで、子どもたちの学力を高めている要因が分かるのではないか。先生方に良い取組とそうではない取組を知っていただきたい。子どもたちの資質や家庭がどの程度学校教育に協力しているか等も要因の1つかもしれない。是非先生方には、この資料を今後の学力向上のために活用いただきたい。

坪井委員：生駒市の数値が高い理由は、26ページの(20)から29ページの(23)ではないか。家庭での教育が大きく影響しているのではないか。与えられている子どもは良いが、そうでない子どももいるということも念頭において施策を講じていきたい。

原井教育長：要因は1つではないと思う。家庭と地域と学校の連携が大切になってくる。さらに、生駒市の図書館教育における施策等も子どもたちの教育を支えているのではないかと感じる。さらにどこを伸ばしていけばいいのかを考えていきたい。

- 飯島委員：26ページの(20)について、全国平均と比べ生駒市の数値は高いが奈良県も高い。しかし奈良県と生駒市の学力には差がある。この要因は教育長もおっしゃっていたように1つでない。これは現場の先生にしか把握できないだろう。また、他市から生駒市に異動してきた先生に比較していただき、奈良県全体の学力の底上げをしていただきたい。学習塾で学力が決まってしまうと公教育の存在意義がなくなってしまう。公教育が価値あるものとして機能するように引き続き取組をお願いしたい。
- 神澤委員：私が1番気になるのは19ページの(13)「学校に行くのは楽しいと思いますか。」である。要因はさまざまである。生駒はそれほど高くないが、今後コロナの影響もあり増えていくだろう。学校に居場所があるかがこの間に反映していると思う。この間に対して、どうして上がらないのか考えはあるか。
- 原井教育長：どの教員もこの問題は課題としている。学校としては、子どもたちに「どうせ自分なんて」というような考えと同時に、認められたいという思いもあると感じる。各学校で、自分の良いところをカードに書いて交換する等、様々な取組を行っている。しかしそれらの活動はすぐに子どもたちの自尊心を高めることに繋がっていかないと感じている。
- 神澤委員：学校が点数で人を測るのは仕方のないことであるが、多様な他者評価を持つことが大切である。生駒市としてこの部分への取組を進めてほしい。
- 伊藤委員：近年、大人が子どもを見るのではなく、大人が自分を見てもらうようになっているのではないか。このことは一概に悪いことではない。しかし、これはありのまま受け入れてもらいたい子どもの気持ちに応えていないように感じる。先生だけでなく保護者も含めて、個人の情報をさらして関心を得ようとしているケースが多いように感じる。コミュニケーションの取り方の方向性が気になる。
- 神澤委員：昔は先生の話聞くのが当たり前であった。子どもたちを中心に置いている今の教育では、この枠組みでは難しいところもある。ただ、教える側のスタンスが以前と変わっているのは間違いない。昔のカウンセラーは自分のことを話してはいけなかったが、今は話すことが基本になっている。学校の先生が自分のことを開示することは方向性として否定する必要はないが、どういう支援ができるのかは考える余地があるだろう。
- レイズ委員：昨年度と比べて、今回は少し分かりづらかった。数値の掲載だけでなくその数字から読み取れることを示してほしい。また、67ページの(61)「英語の勉強は好きですか。」で当てはまると回答した児童・生徒が全国平均より低いのに関わらず、69ページの(63)「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。」で当てはまると回答した児童・生徒が小学生で半分以上、中学校で3分の1ほどいたのは多いと感じた。なぜこのような数値が出たのかが気になる。端末の影響もあるのか。

コロナウイルスの影響もあるのか。学校以外で英語に触れる機会を増やせるように考えていきたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第7 報告第17号 生駒市生涯学習施設等の使用料等に関する規則の一部を改正する規則の制定について

- ・生駒市生涯学習施設等の使用料等に関する規則の一部を改正する規則の制定について、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p19～p21、資料5>

(質疑)

飯島委員：整備されたWi-FiはID・パスワードなしに誰でも繋がれるものか、セキュリティをかけるのか。

清水課長：貸室内のみの利用となっており、パスワードで管理をする予定である。さらに1か月ごとにパスワードを変える等の対策も現在指定管理者とも協議している。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第8 議案第29号 生駒市立幼稚園の再編に係る方向性の決定について

- ・生駒市立幼稚園の再編に係る方向性の決定について、松田こども課長から説明

<参照：議案書p22～p28、資料6～10>

(質疑)

原井教育長：今回は事務局の原案にある「Ⅱ 再編に係る今後の方向性について」の内容についてご審議いただきたい。前回ご質問があった部分に関しては資料を提示している。公立と私立の違いについて事務局から説明をお願いしたい。

坂谷次長：公立のこども園と私立のこども園の違いについて、コアの部分である保育・教育活動に関しては変わらない。それは、合同の園長会にて定期的に情報の共有を行ったり、合同の研修を行ったりしているからである。公立の役割はそれ以外の部分にあり、地域との協働・連携や、支援が必要な園児に関わる関係各所との連携が挙げられる。また、公立の幼児保育の施設には、私立とのネットワークを作り、保幼小連携の仕組みを作ることや、公立と私立の質の均等を保つ役割もある。

飯島委員：議案書27ページに「1つの学年の園児数が10人以下、もしくは、全学年で学年当たりの園児数が15人以下となった時、当該園の再編に向けた対応を進めていくこととする。」とあるが、資料8の推計値と比較すると、数値に該当する年度がある。再編に向けた対応はどの段階で開始し、完了するのか。対応の手順を知りたい。

松田課長：資料8の令和4年度以降の園児数は、現在の未就学児から算出した推計である。転出入の事情を抜きにし、今の就園率をそのまま使ったものになる。今の段階では令和6年度までで議案書にある人数に該当する年度はない。ただ、資料8の数値はあくまで推計であるので、毎年度推移を確認して該当の人数になった時点で周知することになる。予算等の事務的な手続きや保護者、地域への周知のための期間が必要であるので、在園児が卒業するまで園は続くことになる。

原井教育長：資料8は5月1日のものであるが、現在人数の変更はあるか。

松本指導主事：現在なばた幼稚園の3歳児が2人増え、17人となっている。そのため、推計値も変わり、令和4年度の4歳児が17人、令和5年度の5歳児が17人となる。

原井教育長：議案書27ページにて、当面存続としているが、その当面というのは資料8のデータより予測している。しかしあくまでも推計であるので、園児数に変化がある可能性はある。

飯島委員：この人数になったときに自動的に再編になるのか、再協議となるのかが知りたい。決まり次第教えていただきたい。また、人数のラインについて、他市の例等を用いて根拠が示されているが、その数が生駒市として本当に妥当であるのかを知りたい。園児は未発達であり、人間関係を築いていく段階である。グループ活動として成り立つ人数やグループの適切な数を現場の先生から教えていただきたい。現在と再編後の人数で可能な活動、不可能な活動を知りたい。生駒市の具体的な実状に則して示すことで、子どもたちの成長を優先した再編であると自信を持って提示できるのではないか。

松本指導主事：幼児は、個の育ちが安定してはじめて集団への育ちに繋がっていく。幼稚園の教育は、自尊感情を育てることを大切にして、小学校に送り出さなければならないと考えている。人数によってできること、できないことをはっきり示すのは難しく、文部科学省が出していないゆえんでもあると思う。同じ発表の活動でも、少人数は個々の機会がたくさん回ってくる。逆に、大人数では他の園児をたくさん見て学ぶことが出来る。活動内容によってどちらが適切かどうかは変わるので、どのぐらいお示しできるのか分からないが、現場の声を聞きながらお伝えしたい。

レイズ委員：適切な人数を決めるのは難しいと思う。どのような地域かどうかも大切ではないか。例えば、北エリアのような広いが世帯数が少ない地域に、園が1つしかなくその園の園児数が10人を切っている場合、再編はするのか。逆に、中心エリアで世帯数は多いが減少を続ける園は何か対策が必要ではないか。エリアでの園の位置付けによっては、一概に人数で切れないのではないか。今回対象になっている幼稚園は比較的世帯数が多いと思うので、今回は関係ないかもしれないが、今後の様々な可能性を考えると総合的な

判断が必要ではないか。壱分幼稚園のこども園化については、意見書にもあるように、すぐにでもすべきではないかと思う。あいづ壱分保育園やいちぶちどり保育園は2号充足率が100%を超えている。それでもこども園化は在園児が卒園してからなのか。それでは遅くないか。すぐにでも取り掛からなければならないのではないか。

松田課長：壱分幼稚園のこども園化は、環境が大きく変わるわけではないため、在園児が卒園するのを待たなくても良いと考えている。

原井教育長：最短は何年となるのか。

松田課長：こども園化のためには給食室が必要であり、そのための予算取りや改修工事の期間が必要である。そのため来年度から急にこども園化することは不可能である。

イノダ委員：では最短で再来年に可能なのか。

松本指導主事：入園時にこども園化になることを伝えることは必要であると考えている。今の時点で、令和4年度から入園する保護者に、こども園化になることをお伝えできていないため、再来年度からのこども園化は難しい。

イノダ委員：運営に関しては、公立の幼稚園であるので公立のこども園になるのが最もスムーズであると考えているが、スケジュールを聞いているとこども園になる前に園児数が減ってしまうのではないか。

坂谷次長：今後のスケジュールについて、地域協議会ではすぐにでもこども園化してほしいとの意見があった。工事等の物理的な面だけを考えると令和7年度にこども園化ができる。しかし、在園児童の保護者の中には、幼稚園に入園したのにこども園卒園となることに抵抗がある方もいるかもしれない。そのような意見がある場合にはこども園化が延びていかざるを得ない。コロナ禍で未就園児の集いの人数が増えてきていると聞いている。地域の幼稚園への要望は高くなっていると考えている。

原井教育長：このスケジュールは公立の前提である。公私連携となると再び地域協議会を開く等のプロセスが加わり、さらに時間がかかる。また、一度幼稚園を閉園することになる。

伊藤委員：現在定員をオーバーして預かっているあいづ壱分保育園は一分駅から徒歩3分である。南地区合計の2号充足率と3号充足率は他の地区と比較するとあまり大きくない。そのような状況でも、駅から徒歩16分の壱分幼稚園に2号3号の園児は来るのか。また、あいづ壱分保育園が今後も定員をオーバーして預かることが出来るのであれば、新たなニーズがあるのか。また、一分駅に駐輪場はあるのか。壱分幼稚園は自転車で通うことは可能なのか。

松田課長：新たなニーズについては正直見えていない。駅前であると通勤途中で駅から徒歩で送り迎えをされる方が多い。しかし郊外の園は車での送り迎えが

多いため、駐車場の整備を検討している。また、駅前だけにニーズがあるわけではないと考えている。

伊藤委員：数字を見ると駅から近い園にニーズがあると思えるが、そのような認識はないのか。

イノダ委員：いちぶちどり保育園も充足率がオーバーしているが、駅から遠くない。この辺りに住んでいる方々は、車もしくはバスで東生駒駅に向い通勤、通学をしている場合が多い。一方あいづ壱分保育園は壱分バイパスの西側にあり、居住空間が違うように思う。一分駅に駐輪場はあるが、いちぶちどり保育園や壱分幼稚園へは山があるので自転車での送り迎えは難しいと考えられる。充足率が高いいちぶちどり保育園に近く、新しい住宅地の発展がある壱分幼稚園のロケーションでのこども園化はニーズがあると考えます。

原井教育長：この議論は継続審議となり、総合教育会議の開催も予定している。他に何かあるか。

伊藤委員：平成29年度から令和3年度の就園率について、5年間の推移が年平均で5.4%下がっているにも関わらず、なばた幼稚園では0.2%しか下がらない推計となっていることにギャップを感じる。過去の就園率の下がり方を考慮して推計すると、令和4年度の合計人数は34人になる。これらのことから、今後この表を基準に検討していくことに不安を感じる。もう一度御精査いただけないか。

松田課長：そのようなパターンも作成して検討したいと思う。

審議結果 【継続審議】

《 神澤委員 退席 》

○日程第9 議案第30号 生駒市立小・中学校の再編に係る方向性の決定について
・生駒市立小・中学校の再編に係る方向性の決定について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p29～p34>

(質疑)

坪井委員：生駒第二小学校の再編の基準を1学年20人以下としているが、新しく転入がない限り20人を大幅に超えることはないだろう。地域を超えて通うことができるように今後対応するのか。

原井教育長：特別区として校区を設定しない市町村もある。それも1つのやり方ではある。今後の生徒数の見通しについての資料は用意できるか。

山本課長：令和8年度までは今後の見通しを示すことが出来る。それ以降はコロナ禍で出世率が低下しており、推計を出すのが難しい。

原井教育長：次回、令和8年度までの見通しの資料の提示をお願いしたい。

坪井委員：生駒第二小学校について、「令和の日本型教育」を具体化する様々なプログラムの検討をしているようで、魅力的であると感じた。しかし、学校は長く続いていくのに、熱意をもって学校について考えてくれている保護者や地域の方々は、入れ替わってしまうということが心配である。今の状態で存続とするのに不安を感じる。令和8年度までは存続できるので頑張ろうといったような取組であるのか。

奥田部長：あり方検討委員会の際には、コロナウイルスがなかった。生駒市は例年合計特殊出生率がある程度高いにもかかわらず、令和2年度は低かった。毎年およそ1000人が生まれていたが、今年は800人となっている。どれだけこの出生率を回復できるかを数値として出すのが難しい。お示しできるものは、生駒市の出生率と社人研の数値を照らし合わせたものになる。また、今現在の判断としては、地域が学校を守っていくような体制づくりには継続が必要であると考えている。継続が困難となった場合は、事務局職員がオブザーバーとなって、その時々の問題点をどう工夫するのかの判断が都度必要である。10年の計画を作って5年で見直しをかけるということを、行政的に進めているところである。今現在で判断が付きにくいものに関しては、判断が付く状況のときに進めていけばと考えている。

原井教育長：取組の効果があるかどうかの検証を事務局が積極的にしていくことで協働して取り組みたい。

イルズ委員：坪井委員と同意見である。児童数の大幅な自然増は見込めない中で存続となると、学校区を廃止し市内どこからでも入れるようにすることと、この学校に通いたいと思わせる学校作りが大切であると考えている。教育の質が良い学校があることで、その地域に住みたい人も増えてくるであろう。萩の台地区ではすでにユニークな取組をしている。この既存の取組を伸ばしていくということであるが、それは5年後、10年後も継続していかなければならない。そこで大切であるのは、いつからその活動を始めるのかである。在校生が卒業してからではなく、すぐにでも始めた方が良いと考える。

原井教育長：現在実際に地域の方に積極的に関わっていただいている。また、生駒第二小学校独自の教育プログラムも実行されている。今後も検証していきながら、積極的に進めていきたい。

イルズ委員：それらの活動を対外的にアピールしていくことも大切であると考えている。

伊藤委員：児童・生徒数の基準について、不登校等で学校に通うのが困難である児童・生徒へのプログラムとは別である。例えば児童・生徒数がとても少なくなつたとしても、このプログラムの取組が良かった場合どうするのか。

原井教育長：それもひとつの課題である。

審議結果 【継続審議】

≪ 坪井委員 退席 ≫

○日程第10 議案第31号 生駒市社会教育委員会議運営規則の一部を改正する規則の制定について

- ・生駒市社会教育委員会議運営規則の一部を改正する規則の制定について、清水生涯学習課長から説明
＜参照：議案書p35、資料11＞
(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第11 議案第32号 生駒市生涯学習施設条例施行規則及び生駒ふるさとミュージアム条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

- ・生駒市生涯学習施設条例施行規則及び生駒ふるさとミュージアム条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、清水生涯学習課長から説明
＜参照：議案書p36～p37、資料12＞
(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第12 その他

- ・10月の行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明
(質疑)

レィルズ 委員：運動会・体育大会について、開催は平日か。

花山 補佐：小学校は土曜日、中学校は平日に行われる。

レィルズ 委員：内容はコロナ前と同じか。

花山 補佐：コロナ対策をしての開催である。保護者の参加については各学校に対応を任せている。

原井教育長：学校の規模によって対応は様々である。しかし開催は午前中とし、一緒に食事を取ることはない。

レィルズ 委員：なぜ中学校のみ平日なのか。

花山 補佐：昨年から中学校は平日開催である。

山本 課長：校長会で決められ、教育委員会に相談があったので承諾した。理由は部活動との兼ね合いによるもので、コロナウイルスとは関係ない。

- ・教職員の夏期研修の実施について、花山教育指導課課長補佐から説明
＜参照：その他資料1＞

(質疑) なし

○閉会宣告

午後0時15分 閉会